

令和8年度 芦屋市自立支援協議会 専門部会 計画書(案)

1. 令和8年度芦屋市自立支援協議会専門部会のテーマ

つながる、つづける、安心できるサポートファイル

2. 令和8年度芦屋市自立支援協議会実務者会でのテーマ・内容を決めた経緯

令和7年度実務者会では、目安箱とアンケートによる地域課題の意見を集め、また3日間にわたり座談会を開催し、参加者より「困りごと」「要望・ニーズ」を集めた。検討した結果、3つのキーとなるテーマが浮かび上がった。

着目した困りごと・ニーズ、集約した課題	キーとなるテーマ
<ul style="list-style-type: none"> ・安心できる場がほしい。居場所が少ない。 ・職場で話ができる人がいない。仕事の悩みを話できる人がいない。 ・“ともに”仲間づくり(例えば当事者サークルや趣味の集まり)ができればいいのに。 ・自宅に居ながら参加できたり、外出しなくてもつながれる場所があったらいいのに。 	「居場所」
<ul style="list-style-type: none"> ・親なき後の生活には人手不足が不安で深刻。障がいのある人の地域での生活を支えるためには、地域の障がい理解・地域の支援力の向上が必要。 ・障がい理解をいろいろな場面で深めてほしい。地域の人たち(学校・保護者・職場・警察・公的機関など)の福祉専門職ではない人にも深めてもらいたい。 	「障がい理解」
<ul style="list-style-type: none"> ・児童の保護者が次のステップ(進学・就職)に進むときに不安がある。 ・資源の不足や情報を知る機会が足りない現状が課題であるが、もう一方では情報が多すぎて保護者が不安になることも起きている。正しい情報が共有できていない。 	「教育・保護者の不安」

これらの3つの課題に着目し議論を重ねた結果、それぞれ解決する取り組みが重なる部分も多いのではないかと
いう意見も多く、「居場所・集まりの創出」と「支援ツール(サポートファイル)の改善」に内容を絞ったが、両方というの
はボリュームが大きすぎるため、支援ツールの改善に重きを置き、その過程で当事者・保護者が集まる場を設けて居
場所としての機能も副次的に考える方向となった。また、無理のない進進にしたい意向から2年計画で実施と考えた。

取組みの目的

1. 既存の資源が必要な人に「つながる」こと。
2. 今までの取りくみを持続可能な形で「つづける」(続けられる)こと
3. 若い保護者や未就学児の親が自然につながれる機会をつくり、不安が解消され「安心できる」こと。保護者が安心できる仕組みや場を作ることで、こどもも安心するという良い循環が生まれる状態をめざす
4. 今までの取りくみが持続できるような形で再検討し、「サポートファイル」の利便性を高める
5. 既存の取り組みが評価できること

3. 活動内容(案)

幼少期からのアセスメントを積み上げる仕組みづくり。サポートファイルのデータ化、共通のアセスメントシートを検討

○1年目(ヒアリング・調査期、作成期):現状のサポートファイルがどう使われているか、成人期以降にどう活用できるか等のヒアリングやアンケートを実施。少人数のプロジェクトチームを募集し、意見交換の場(勉強会等)を開催する。ヒアリング結果に基づき、内容のブラッシュアップやデジタル化の検討、リニューアル版の作成を行う。

○2年目(作成・検証期):たたき台をチェック・検証する。完成したツールの告知と配布、使い方の説明会を実施。

4. 令和8年度芦屋市自立支援協議会専門部会構成員(案)

別紙参照